

令和5年度 学校評価〈集計結果〉(後期)

令和5年12月実施

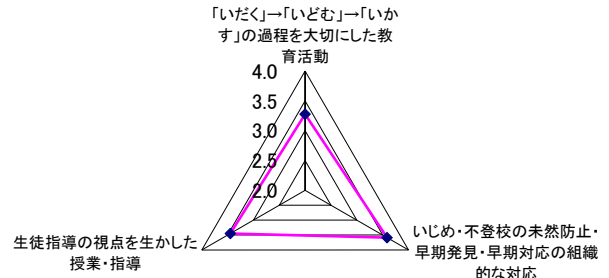
小郡市立小郡中学校(教職員)

1. 未来に向かう「心」の育成

大項目評価	3.44	B	
小項目評価	「いどく」→「いどむ」→「いかす」の過程を大切にした教育活動	いじめ・不登校の未然防止・早期発見・早期対応の組織的な対応	生徒指導の視点を生かした授業・指導
	3.28	3.59	3.45
	B	A	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

1. 未来に向かう「心」の育成

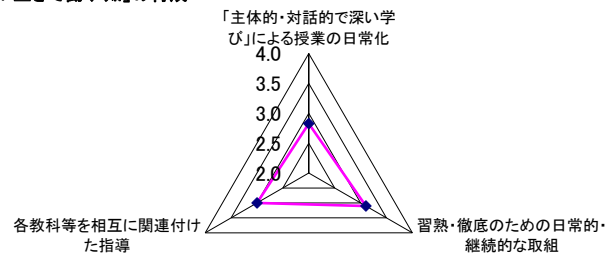


2. 生きて働く「知」の育成

大項目評価	2.98	B	
小項目評価	「主体的・対話的で深い学び」による授業の日常化	習熟・徹底のための日常的・継続的な取組	各教科等を相互に関連付けた指導
	2.83	3.10	3.00
	B	B	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

2. 生きて働く「知」の育成

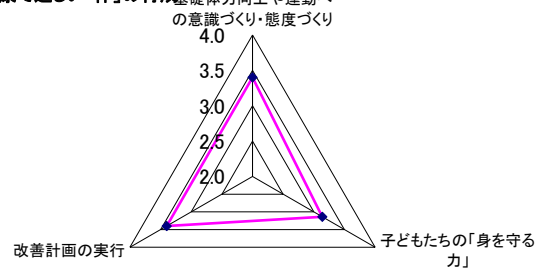


3. 健康で逞しい「体」の育成

大項目評価	3.31	B	
小項目評価	基礎体力向上や運動への意識づくり・態度づくり	子どもたちの「身を守る力」	改善計画の実行
	3.40	3.14	3.40
	B	B	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

3. 健康で逞しい「体」の育成

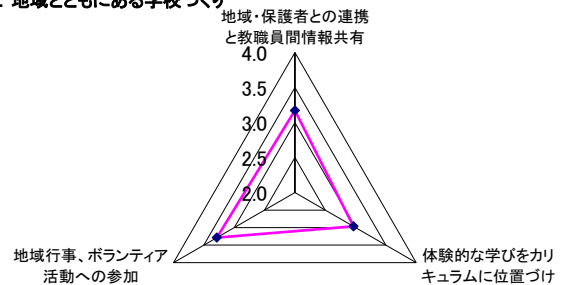


4. 地域とともにある学校づくり

大項目評価	3.14	B	
小項目評価	地域・保護者との連携と教職員間情報共有	体験的な学びをカリキュラムに位置づけ	地域行事、ボランティア活動への参加
	3.17	2.97	3.29
	B	B	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

4. 地域とともにある学校づくり



5. ICT活用力の育成

大項目評価	3.17	B		
小項目評価	タブレットを活用した学習の実施	計画的な情報モラル教育の実施	キーボードのローマ字打ちでのタイピング60文字/分	生徒の主体性を伸ばすタブレット活用
	2.87	2.93	4.00	2.86
	B	B	A	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

6. 個に応じた学びの充実

大項目評価	3.41	B	
小項目評価	「個に応じた学び」の計画的な実施	保護者と教職員、専門機関をつないだ組織的な取組	補助簿等の使用、習熟度別学習の推進
	3.17	4.00	3.07
	B	A	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

7. 教職員の資質向上の推進

大項目評価	3.21	B	
小項目評価	指導上の課題を協議・共有して、日常授業の改善	組織的な共同体制のもとに研修	組織的な人材育成
	3.14	3.03	3.46
	B	B	B

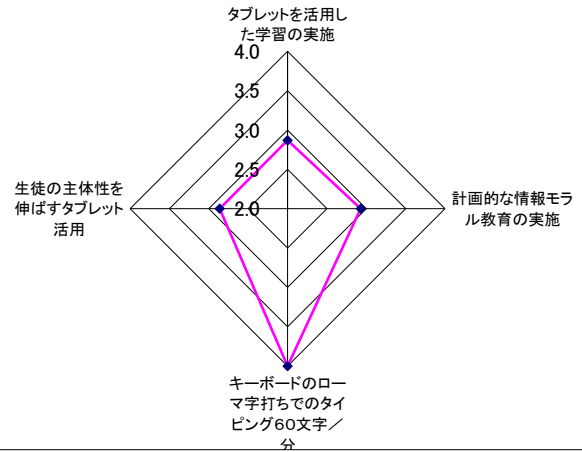
4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

8. 小中9年間を見通した指導体制の充実

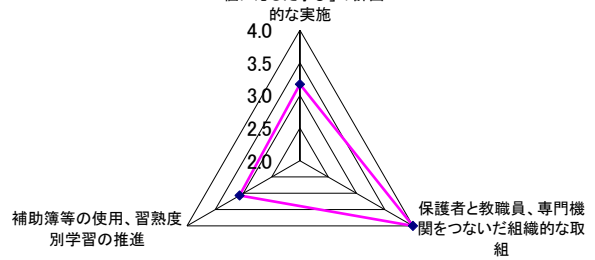
大項目評価	3.20	B	
小項目評価	小中で共通理解し、統一した授業改善や生徒指導	小学校での学習・生活の状況を踏まえた指導の工夫	中1ギャップの解消
	3.17	3.30	3.14
	B	B	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

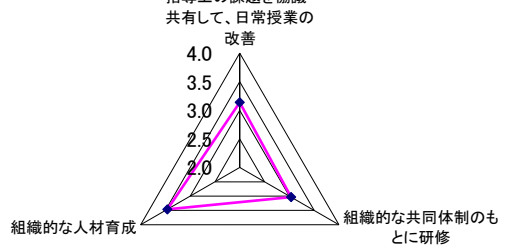
5. ICT活用力の育成



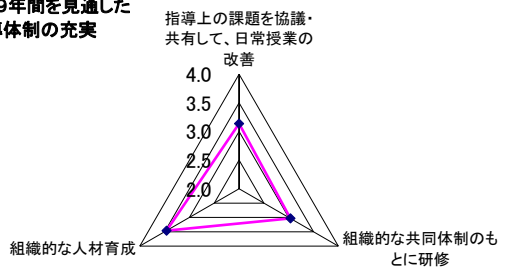
6. 個に応じた学びの充実 「個に応じた学び」の計画的な実施



7. 教職員の資質向上の推進 指導上の課題を協議・共有して、日常授業の改善



8. 小中9年間を見通した指導体制の充実

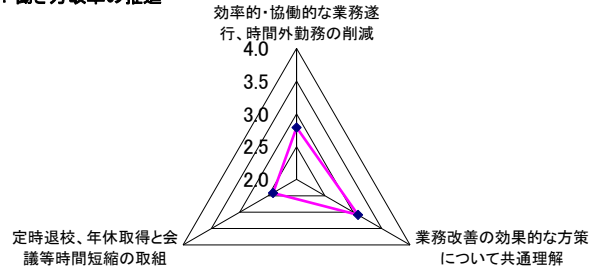


9. 働き方改革の推進

大項目評価	2.76	B	
小項目評価	効率的・協働的な業務遂行、時間外勤務の削減	業務改善の効果的な方策について共通理解	定時退校、年休取得と会議等時間短縮の取組
	2.79	3.08	2.41
	B	B	C

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

9. 働き方改革の推進

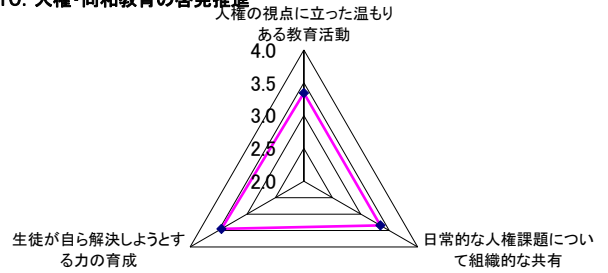


10. 人権・同和教育の啓発推進

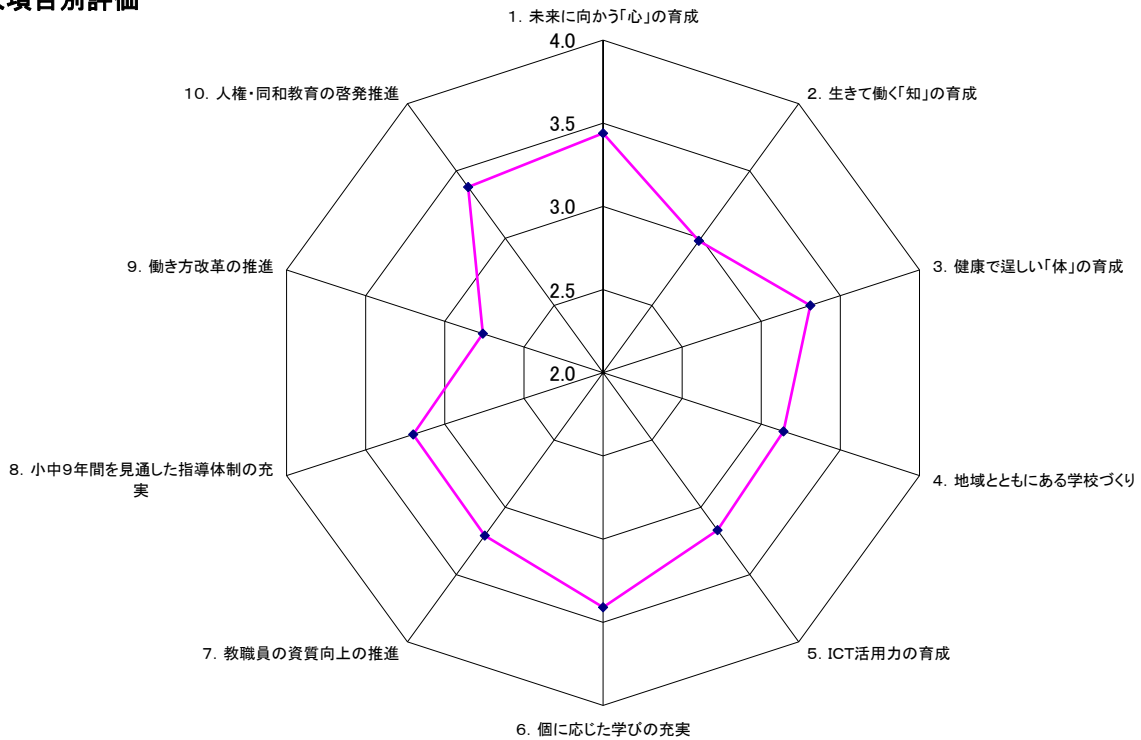
大項目評価	3.38	B	
小項目評価	人権の視点に立った温もりある教育活動	日常的な人権課題について組織的な共有	生徒が自ら解決しようとする力の育成
	3.34	3.34	3.45
	B	B	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

10. 人権・同和教育の啓発推進



大項目別評価



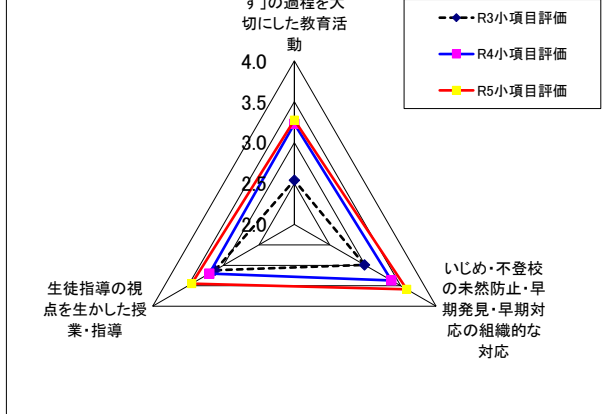
1. 未来に向かう「心」の育成

	「いまだく」→「いどむ」→「いかす」の過程を大切に した教育活動	いじめ・不登校の未然防 止・早期発見・早期対応 の組織的な対応	生徒指導の視点を生か した授業・指導
R3小項目評価	2.54	2.99	3.12
R4小項目評価	3.23	3.37	3.20
R5小項目評価	3.28	3.59	3.45

大項目評価	R3	R4	R5
	2.75	3.28	3.44
	B	B	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

1. 未来に向かう「心」の育成



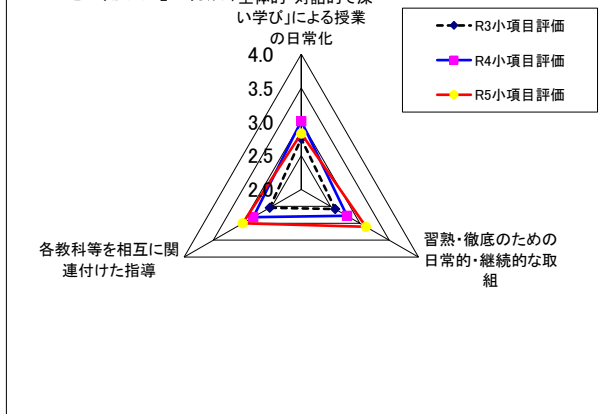
2. 生きて働く「知」の育成

	「主体的・対話的で深い 学び」による授業の日常 化	習熟・徹底のための日常 的・継続的な取組	各教科等を相互に関連 付けた指導
R3小項目評価	2.75	2.58	2.54
R4小項目評価	3.01	2.78	2.82
R5小項目評価	2.83	3.10	3.00

大項目評価	R3	R4	R5
	2.60	2.85	2.98
	B	B	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

2. 生きて働く「知」の育成



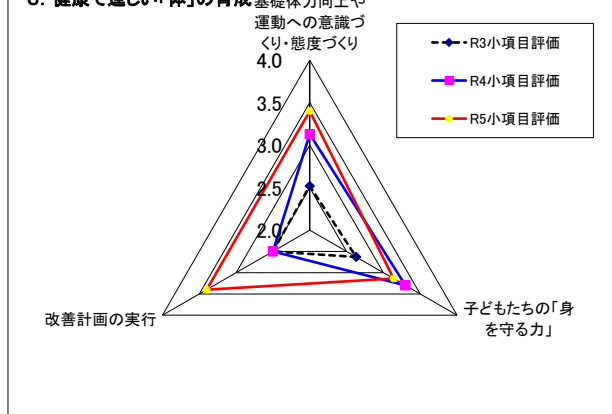
3. 健康で逞しい「体」の育成

	基礎体力向上や運 動への意識づくり・ 態度づくり	子どもたちの「身 を守る力」	改善計画の実行
R3小項目評価	2.52	2.63	2.50
R4小項目評価	3.13	3.30	2.50
R5小項目評価	3.40	3.14	3.40

大項目評価	R3	R4	R5
	2.58	3.21	3.31
	B	B	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

3. 健康で逞しい「体」の育成



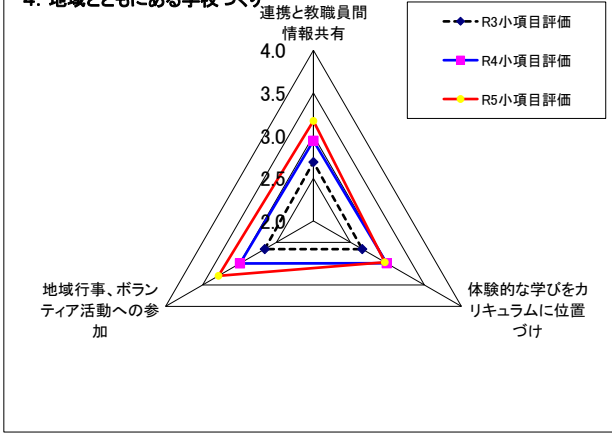
4. 地域とともにある学校づくり

	地域・保護者との連携と 教職員間情報共有	体験的な学びをカリキ ュラムに位置づけ	地域行事、ボランティア 活動への参加
R3小項目評価	2.69	2.66	2.66
R4小項目評価	2.94	2.99	2.99
R5小項目評価	3.17	2.97	3.29

大項目評価	R3	R4	R5
	2.66	2.99	3.14
	B	B	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

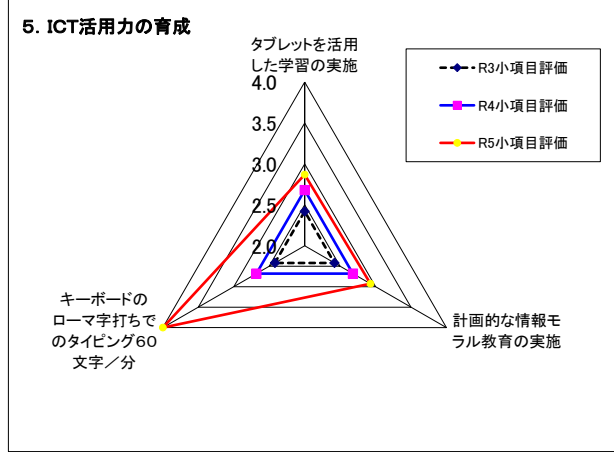
4. 地域とともにある学校づくり



5. ICT活用力の育成

	タブレットを活用した学習の実施	計画的な情報モラル教育の実施	キーボードのローマ字打ちでのタイピング60文字/分	生徒の主体性を伸ばすタブレット活用
R3小項目評価	2.42	2.42	2.42	
R4小項目評価	2.68	2.68	2.68	
R5小項目評価	2.87	2.93	4.00	2.86
大項目評価	R3	R4	R5	
	2.42	2.68	3.17	
	C	B	B	

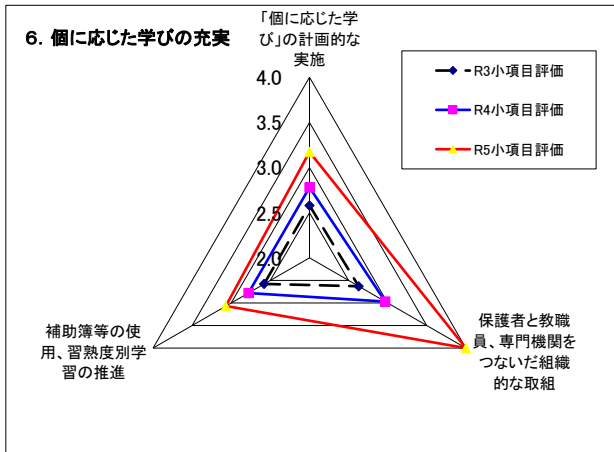
4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D



6. 個に応じた学びの充実

	「個に応じた学び」の計画的な実施	保護者と教職員、専門機関をつないだ組織的な取組	補助簿等の使用、習熟度別学習の推進	
R3小項目評価	2.58	2.63	2.58	
R4小項目評価	2.78	2.97	2.78	
R5小項目評価	3.17	4.00	3.07	
大項目評価	R3	R4	R5	
	2.58	2.78	3.41	
	B	B	B	

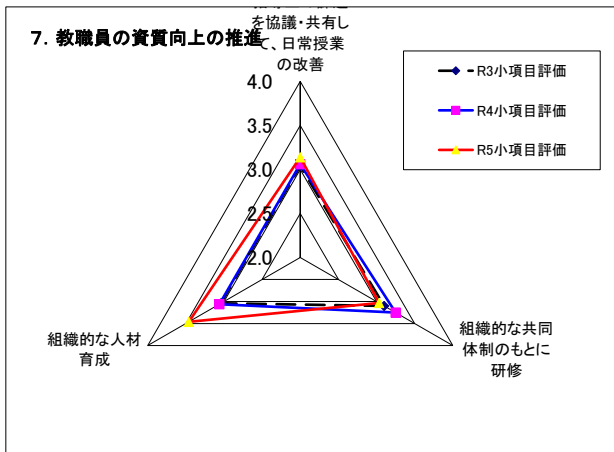
4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D



7. 教職員の資質向上の推進

	指導上の課題を協議・共有して、日常授業の改善	組織的な共同体制のもとに研修	組織的な人材育成	
R3小項目評価	3.04	3.10	3.04	
R4小項目評価	3.06	3.25	3.06	
R5小項目評価	3.14	3.03	3.46	
大項目評価	R3	R4	R5	
	3.03	3.18	3.21	
	B	B	B	

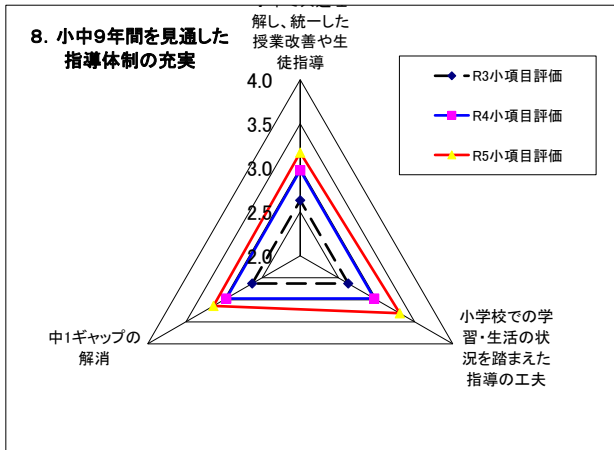
4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D



8. 小中9年間を見通した指導体制の充実

	小中で共通理解し、統一した授業改善や生徒指導	小学校での学習・生活の状況を踏まえた指導の工夫	中1ギャップの解消	
R3小項目評価	2.63	2.63	2.63	
R4小項目評価	2.97	2.97	2.97	
R5小項目評価	3.17	3.30	3.14	
大項目評価	R3	R4	R5	
	2.63	2.97	3.20	
	B	B	B	

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

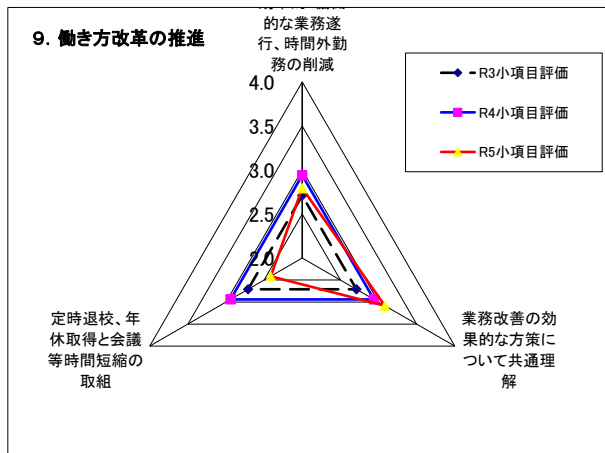


9. 働き方改革の推進

	効率的・協働的な業務遂行、時間外勤務の削減	業務改善の効果的な方策について共通理解	定時退校、年休取得と会議等時間短縮の取組
R3小項目評価	2.71	2.71	2.71
R4小項目評価	2.94	2.94	2.94
R5小項目評価	2.79	3.08	2.41

大項目評価	R3	R4	R5
	2.71	2.94	2.76
	B	B	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

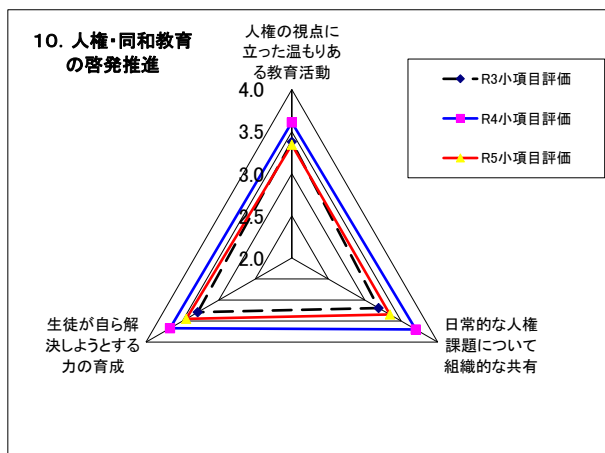


10. 人権・同和教育の啓発推進

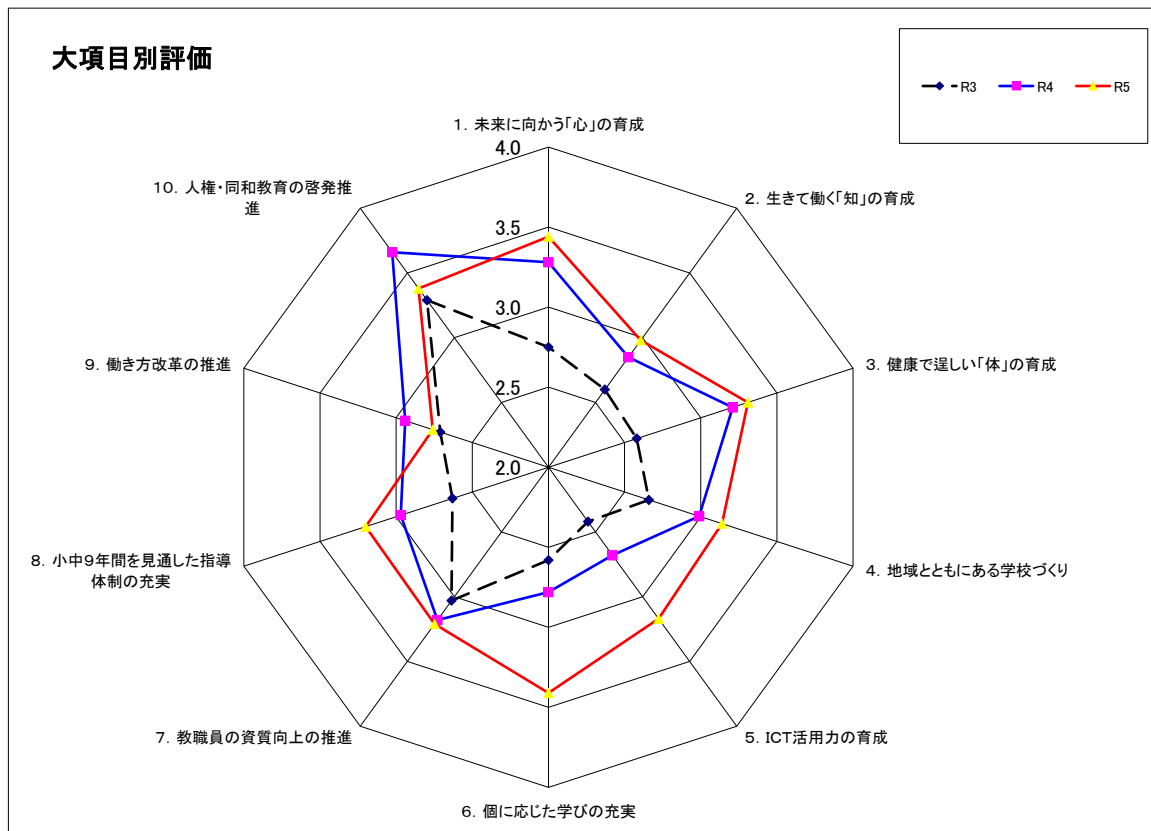
	人権の視点に立った温もりある教育活動	日常的な人権課題について組織的な共有	生徒が自ら解決しようとする力の育成
R3小項目評価	3.38	3.19	3.29
R4小項目評価	3.61	3.70	3.67
R5小項目評価	3.34	3.34	3.45

大項目評価	R3	R4	R5
	3.29	3.66	3.38
	B	B	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D



大項目別評価



大項目	未来に向かう「心」の育成	評価			小郡市立小郡中学校	令和5年度 学校評価報告シート	
		3.41	3.44	B			
小項目		前期	後期		小項目の評価基準(例)	◎改善策	
1	子どもたちの「志」や「自律の心」を育むために、「いたく」(夢や願いをいだし、課題や目標を明らかにする)→「いどむ」(繰り返し目標に挑み、人ともに学びを深める)→「いかす」(学びを振り返り、成果と課題をいかして自ら学びを最適化する)の過程を大切に教育活動を進めている。	3.21	3.28		④ 進めている。	◎子供たちの「志」や「自律の心」を育むため「キャリアパスポート」の活用の充実を図り、学校の教育活動において「いどむ」「生かす」取組を意図的に位置づけ、意識的に取組を進める。また、その取組を学校行事計画や各教科の単元計画に明確に記載する。	
	[担当者] 迫脇健一郎	B	B		③ どちらかといえば進めている。		
					② あまり進めていない。		
					① 進めていない。		
	「いじめ・不登校の未然防止・早期発見・早期対応」について、子どもの声を丁寧に聞き取り、教職員・専門家・保護者等をつないだ組織的な対応を行っている。	3.57	3.59		④ 行っている。		◎いじめや不登校等、生徒指導に係る対応について、不登校予防診断チェックリストなど根拠に基づく生徒の実態把握の実施、教職員間の情報共有の在り方に係る研修の実施。併せて、不登校の未然防振につながる専門家、特にCSと生徒、教職員の連携を密にする。また、長期休業期間の前後に保護者啓発を計画的に行う。
	[担当者] 山内杏城	A	A		③ どちらかといえば行っている。		
				② あまり行っていない。			
				① 行っていない。			
生徒指導の視点(自己決定の場・共感的人間関係の育成・自己存在感の感受・安心、安全な風土の醸成)を生かした授業・指導を行っている。	3.46	3.45		④ 行っている。	◎生徒指導提要の4つの視点に基づく、授業中の安心・安全な風土を醸成する指導の在り方について教職員の理解を深めるための研修を実施する。		
[担当者] 池田佳太郎	B	B		③ どちらかといえば行っている。			
				② あまり行っていない。			
				① 行っていない。			
大項目	生きて働く「知」の育成	前期	後期				
		2.93	2.98	B			
2	社会の変化に対応できる「真の学力」を育むために、「学力向上プラン」を共通実践し、「主体的・対話的で深い学び」による授業を日常化している。	2.82	2.83		④ 日常化している。	◎生徒が主体的に学習に取り組むことができるようにするために、これまでの学習を振り返り、本時の見通し(めあて)をつかむための学習活動を授業の導入場面に位置づけることを徹底する。	
	[担当者] 池田佳太郎	B	B		③ どちらかといえば日常化している。		
					② あまり日常化していない。		
					① 日常化していない。		
	子どもの基礎学力を高め「低位層」の子どもたちを減らすため、習熟・徹底のための日常的・継続的な取組を確実にしている。	2.93	3.10		④ 行っている。		◎各種学力テスト等の結果を丁寧に分析し、「低位層」にある生徒の学力課題を把握した上で、個に応じた指導を行っていく。また、生徒一人ひとりの習熟度等に応じた学びを進められるようにするために、タブレット端末の活用方法を工夫する。
	[担当者] 池田佳太郎	B	B		③ どちらかといえば行っている。		
				② あまり行っていない。			
				① 行っていない。			
各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、学年の取組等を相互に関連付けた指導を行っている。	3.04	3.00		④ 行っている。	◎道徳科、総合的な学習、特別活動、学年の取組等の目的を明確にし、相互の関連性を十分に理解するための時間確保を行う。具体的には、週時間割に学年会の時間を設定し、学年職員間の連携を密にする。		
[担当者] 迫脇健一郎	B	B		③ どちらかといえば行っている。			
				② あまり行っていない。			
				① 行っていない。			

大項目	健康で逞しい「体」の育成	評価			小郡市立小郡中学校	令和5年度 学校評価報告シート	
		3.35	3.31	B			
小項目		前期	後期	小項目の評価基準(例)		◎改善策	
3	「体力向上プラン」を共通理解・共通実践し、子どもたちの基礎体力向上や運動への意識づくり・態度づくりに取り組んでいる。	3.24	3.40	④	取り組んでいる。	◎生徒の体力・運動能力の課題を把握し、関連する教科や部活動における基礎体力向上に向けた取組を具体化する。また、体力向上プランを関係職員間で共通理解し、効果的で実践可能な取組を検討する。 ◎校区内の危険箇所について、保護者や地域との連携を基に情報収集に努め、防災マップの修正を行う。また、地区懇談会でも情報を収集する。 ◎警察医の交通安全指導教室や防災訓練における消防署等の関係機関との連携を継続し、地域を巻き込んだ訓練の在り方について検討する。 ◎基本的な生活習慣等に関するアンケート結果を各学期に行われている教育相談に活かすとともに、保護者にも還元することで、家庭での生活習慣等に関する課題意識を高め、家庭との協力・連携の充実を図る。	
		B	B	③	どちらかといえば取り組んでいる。		
	[担当者]	浦川太秀			②		あまり取り組んでいない。
					①		取り組んでいない。
	子どもたちの「身を守る力」を育むために、地域と連携して「防災」「安全」「健康」をテーマに計画的に取り組んでいる。	3.32	3.14	④	取り組んでいる。		
		B	B	③	どちらかといえば取り組んでいる。		
[担当者]	山内壱城			②	あまり取り組んでいない。		
				①	取り組んでいない。		
生活ノートの取組や学校生活アンケート等を実施し、生徒の生活習慣等を把握し、改善が必要な生徒については、教育相談等で指導をしている。	3.50	3.40	④	取り組んでいる。			
	B	B	③	どちらかといえば取り組んでいる。			
[担当者]	山内壱城			②	あまり取り組んでいない。		
				①	取り組んでいない。		
大項目	地域とともにある学校づくり	前期	後期				
		3.07	3.14	B			
4	学校運営協議会との信頼関係を基盤に地域・保護者との連携協働による教育活動について協議を深め、教職員間でも情報を共有している。	3.07	3.17	④	共有している。	◎学校運営協議会委員との連携を一層充実させるため、生徒を交えた熟議の場を設定する。また、学校や家庭・地域が抱える課題についてわかりやすく情報提供をするとともに、課題解決に向けた取組の成果を情報発信していく。 ◎子どもたちの「ふるさと」に対する意識の高揚を図るために、教科の枠をこえて関連する取組をまとめた「小郡中ふるさとカリキュラム」の見直しを行う。その際、地域の行事や職場体験学習等の生かし方を検討する。 ◎地域の方や保護者との連携による「小郡中学校ふるさとクリーン活動」を継続的に実施し、取組の活性化を図る。また、地域行事への関心を高め、参加を呼びかける。	
		B	B	③	どちらかといえば共有している。		
	[担当者]	早田恵美			②		あまり共有していない。
					①		共有していない。
	子どもたちの「ふるさと愛」を育むために、地域・校区のよさ(「人・もの・こと」)を生かした体験的な学びをカリキュラムに位置づけて実践している。	2.89	2.97	④	実践している。		
		B	B	③	どちらかといえば実践している。		
[担当者]	迫脇健一郎			②	あまり実践していない。		
				①	実践していない。		
学校で実施している「ふるさとクリーン活動」の意義や目的を生徒にわかるように説明し、地域行事やボランティア活動に積極的に参加するように促している。	3.25	3.29	④	できている。			
	B	B	③	どちらかといえばできている。			
[担当者]	田中ゆかり			②	あまりできていない。		
				①	できていない。		

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

大項目	ICT活用力の育成	評価			小郡市立小郡中学校	令和5年度 学校評価報告シート
		3.01	3.17	B		
小項目		前期	後期	小項目の評価基準(例)		◎改善策
5	タブレットを活用して学習を行っている。	2.78	2.87	④	週2回以上行っている。	◎個々の教職員によって活用頻度に差があるため、タブレット活用のレベル別の研修や授業公開を行っている。
				③	週1回程度行っている。	
	[担当者] 松島光	B	B	②	月2~3回くらい行っている。	
				①	月1回程度行っている。	
	教育課程に位置づけた情報モラル教育を計画的に行っている。	2.88	2.93	④	行っている。	◎技術・家庭科の「技術分野」における情報モラル教育を引き続き実施するとともに、情報モラルに関する授業を公開して情報モラル教育のあり方について協議する。
				③	どちらかといえば行っている。	
	[担当者] 松島光	B	B	②	あまり行っていない。	
				①	行っていない。	
	キーボードのローマ字打ちでのタイピングが学年の目標レベルに達している。(1分間に打てる文字数・小学校中学年40字以上、高学年50字以上、中学生60字以上)	3.50	4.00	④	学級の8割程度が目標レベルに達している。	◎今年度から実施したタイピングテストは、生徒の意欲を喚起する上で有効であった。次年度も継続して行っていく。
				③	学級の6割程度が目標レベルに達している。	
	[担当者] 松島光	B	A	②	学級の4割程度が目標レベルに達している。	
				①	学級の2割以下が目標レベルに達している。	
生徒の主体性を伸ばすために、授業を中心にタブレットを活用することを意識している。	2.89	2.86	④	意識している。	◎家庭でも取り組みやすいデジタル教材等の開発を行っている。	
			③	どちらかといえば意識している。		
[担当者] 松島光	B	B	②	あまり意識していない。		
			①	意識していない。		
大項目	個に応じた学びの充実	前期	後期			
		3.10	3.41	B		
6	学力保障・個性伸長のため、個別学習やグループ別学習、繰り返し学習、習熟の程度に応じた学習、課題選択学習など、「個に応じた学び」(個別最適な学び)を一人一人の子どもの特性や教育的ニーズ、興味・関心に応じ計画的に行っている。	3.11	3.17	④	行っている。	◎生徒の学力に関する取組の頻度、学習環境についてアンケートによる実態把握を行うとともに、子どもの特性や興味・関心に関する理解に努め、「個別最適な学び」につながる取組の在り方について検討する。
				③	どちらかといえば行っている。	
	[担当者] 下川優子	B	B	②	あまり行っていない。	
				①	行っていない。	
	特別支援教育に関し、「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を作成し、特別支援教育コーディネーターを中心に、保護者と教職員、専門機関をつないだ丁寧な取組を組織的に行っている。	3.27	4.00	④	行っている。	◎特別な支援を要する生徒の「個別の支援計画」及び「個別の指導計画」を作成し、見直しを行うとともに、全職員で共通理解した上で、関係職員及び保護者との信頼関係を構築し、密な連携を促進する。
				③	どちらかといえば行っている。	
	[担当者] 下川優子	B	A	②	あまり行っていない。	
				①	行っていない。	
	補助簿等を活用し、子どものつまづきや習熟の程度に応じた学習指導を行うとともに、自身の学習指導を評価し、改善を図るなど、指導と評価の一体化を図っている。	2.93	3.07	④	行っている。	◎授業における生徒の変容等を丁寧に記録するとともに、効果的な実践を行っている教職員の「子どもの見取りの観点」や「評価を指導改善に生かす際に意識していること」を交流する場を設ける。
				③	どちらかといえば行っている。	
	[担当者] 迫脇健一郎	B	B	②	あまり行っていない。	
				①	行っていない。	

大項目	教職員の資質向上の推進	評価			小郡市立小郡中学校	令和5年度 学校評価報告シート
		3.17	3.21	B		
小項目		前期	後期	小項目の評価基準(例)		◎改善策
7	学力調査結果等をもとに指導上の課題を全教職員で協議・共有して、日常授業の改善を行っている。	2.89	3.14	④ 行っている。	◎次年度も校内研修推進委員会を中心に、各種学力調査や実態調査等から見えてきた課題の改善策を具体化し、全職員への情報提供を行うとともに、課題のある生徒たちに関する意見交換等を行う。	
	[担当者] 池田佳太郎	B	B	③ どちらかといえば行っている。		
				② あまり行っていない。		
				① 行っていない。		
	組織的な共同体制のもとに研修を行い、ICT教育をはじめとする教育動向への理解を深め、教職員としての資質を高めている。	3.25	3.03	④ 高めている。		◎校内研修推進委員会を中心に、最新の教育動向に関する情報の収集に努め、授業におけるICT活用の実践を一層充実させるために、演習を取り入れた研修を活発に行う。
	[担当者] 池田佳太郎	B	B	③ どちらかといえば高めている。		
			② あまり高めていない。			
			① 高めていない。			
校内研修が計画的に位置付けられ、組織的な人材育成を図っている。	3.37	3.46	④ 図っている。	◎引き続き校内研修を計画的に実施するとともに、組織的な人材育成を行うためにミニ研修等の経験豊かな教職員の意見を生かしたOJTによる研修の機会を増やす。		
[担当者] 池田佳太郎	B	B	③ どちらかといえば図っている。			
			② あまり図っていない。			
			① 図っていない。			
大項目	小中9年間を見通した指導体制の充実	前期	後期			
		3.09	3.20		B	
8	小中学校間で児童生徒の学力実態・生活実態・家庭状況等を共通理解し、統一した方針や計画を基に授業改善や生徒指導を行っている。	3.07	3.17	④ 行っている。	◎今後も継続的に小中学校間で児童生徒の実態や家庭状況等について共通理解を図る場を設定する。また、指導方法や指導内容について効果が見られる取組を共有する。	
	[担当者] 仲野公美	B	B	③ どちらかといえば行っている。		
				② あまり行っていない。		
				① 行っていない。		
	(中学校)小学校での学習・生活の状況を踏まえた指導の工夫を行っている。	3.13	3.30	④ あてはまる。		◎小学校からの情報をもとに、生徒の学習や生活状況の変化を的確に見取り、生徒の実態に応じた効果的な指導方法を工夫する。
	[担当者] 仲野公美	B	B	③ どちらかといえばあてはまる。		
			② あまりあてはまらない。			
			① あてはまらない。			
特別な支援を必要とする生徒について、中1ギャップ解消のための小中連携を図っている。	3.07	3.14	④ 取り組んでいる。	◎小中学校間で子どもの学力実態や生活実態、家庭状況等について共通理解を図る連絡会や事前の学校見学会を設定する。また、学校行事や「人権フォーラム」の際に、児童生徒が交流する機会を設ける。		
[担当者] 田中ゆかり	B	B	③ どちらかといえば取り組んでいる。			
			② あまり取り組んでいない。			
			① 取り組んでいない。			

大項目	働き方改革の推進	評価			小郡市立小郡中学校	令和5年度 学校評価報告シート	
		2.66	2.76	B			
小項目		前期	後期	小項目の評価基準(例)		◎改善策	
9	効率的・協働的な業務遂行に努め、時間外勤務の削減に努めている。	2.75	2.79	④	そう思う。	◎個々の教職員が見通しをもって効率的な業務遂行に努めるとともに、学年や担当分掌の職員が協働して業務にあたり、時間外勤務の削減に努める。	
				③	どちらかといえばそう思う。		
	B	B	②	あまり思わない。			
	[担当者]	早田恵美	①	思わない。			
	勤務の状況や業務改善の効果的な方策について教職員間で組織的に協議し、共通理解している。	2.73	3.08	④	そう思う。		◎運営委員会を中心に勤務実態を把握し、勤務時間の個人差を改善するための方策や、校務や諸教育活動の削減、取捨選択について検討する。
				③	どちらかといえばそう思う。		
B	B	②	あまり思わない。				
[担当者]	早田恵美	①	思わない。				
月2回の定時退校に取り組み、計画的に年休を取得している。また、会議研修および、分掌部会の時間短縮に努めている。	2.50	2.41	④	取り組んでいる。	◎定時退校の位置づけを継続するとともに、時間割や会議等を調整するなど計画的な年休を取得しやすい体制づくりを行う。 ◎提案内容の精選等を行い、会議研修や分掌部会の時間短縮を図る。		
			③	どちらかといえば取り組んでいる。			
C	C	②	あまり取り組んでいない。				
[担当者]	早田恵美	①	取り組んでいない。				
大項目	人権・同和教育の啓発推進	前期	後期				
		3.45	3.38	B			
10	「つながる心」や「関わり合い」を大事にする人権の視点に立った温もりある教育活動を学校教育全体で進めている。	3.54	3.34	④	進めている。	◎各教育活動の「目的」に人権の視点を明確に示すことを全職員で確認するとともに、人権・同和教育に関する校内研修の中で「つながる心」や「関わり合い」を意識した実践を全職員で交流する場を設定する。	
				③	どちらかといえば進めている。		
	A	B	②	あまり進めていない。			
	[担当者]	國分律子	①	進めていない。			
	ICT教育を進めていく中で生じてくる人権課題をはじめ、子どもを取り巻く日常的な人権課題について校内で組織的に共有している。	3.43	3.34	④	共有している。		◎子どもを取り巻く日常的な人権課題についての情報収集に努め、適宜、全教職員による共通理解を図るとともに、教職員間の丁寧な情報交換ができる体制を構築していく。
				③	どちらかといえば共有している。		
B	B	②	あまり進めていない。				
[担当者]	松島光	①	共有していない。				
生徒が日常生活における人権侵害や差別的対象等人権に関わる問題に気付き、自ら解決しようとする力を育てている。	3.39	3.45	④	育てている。	◎現在の人権問題に関する情報収集に努め、教職員への情報提供を行う。また、人権学習計画に人権課題に関する事例を意図的に位置づけ、学習内容の一層の充実を図る。		
			③	どちらかといえば育てている。			
B	B	②	あまり育てていない。				
[担当者]	仲野公美	①	育てていない。				

R5学校自己評価について

令和5年12月実施

小郡市立小郡中学校

※数値はR4 年度数値 → □の数字は、R5 年度数値を表す。

評価の目安 $4 \geq A > 3.5 \geq B > 2.5 \geq C > 1.5 \geq D$

1 未来に向かう「心」の育成 3.28 → 3.44 評価B

○「いづく」→「いどむ」→「いかす」の過程を大切にした教育活動 3.23 → 3.28

・学校教育目標「夢と志をもって主体的に学び、心豊かにたくましく生きる生徒の育成」の実現に向け、全教育課程において重点目標「自分で考えて、判断し、責任をもって行動できる生徒」の具現化に向けた教育活動を推進している。

○いじめ・不登校の未然防止・早期発見・早期対応の組織的な対応 3.37 → 3.59

・小郡中学校「いじめ防止基本方針」を基に月1回の「いじめアンケート」を実施し、「学校生環境多面調査」等を活用して詳細な生徒の実態把握を行い、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に努めた。

・不登校の未然防止を図るために人権学習等を丁寧に実施するとともに、各教科等で「わかる授業づくり」に努めている。また、「不登校予防診断チェックリスト」の実施に加え、諸事情等によって不登校兆候にある生徒の情報交換、サポート教室の実施やすでに不登校状態にある生徒と関係機関（市SSW、子育て支援課、民生・児童委員等）との連携に努めている。

○生徒指導の機能を生かした授業・指導 3.20 → 3.45

・日常の授業において自己決定の場面設定や共感的人間関係を構築していくための集団づくり、自己存在感を味わわせることができる振り返り活動に取り組んでいる。

2 生きて働く「知」の育成 2.85 → 2.98 評価B

○「主体的・対話的で深い学び」による授業の日常化 3.01 → 2.83

・校内の研究主題を「見通しをもって、主体的に学ぶ生徒の育成」、副主題を「学習を振り返り、見通すためのスタディ・ログの活用を通して」とし、全教科の教職員が年1回の授業研究を実施。他教科の先生方との、授業における取組に関する意見交流等を実施している。

○習熟・徹底のための日常的・継続的な取組 2.78 → 3.10

・各種学力調査や授業アンケート等の結果をもとに、生徒の実態把握を行い、生徒のつまずきを見取り、個別最適な支援につながるような手立てを工夫し、日常の授業改善に取り組んでいる。

・タブレットを活用して練習問題等を蓄積し、生徒のつまずきや習熟の程度に応じた学習や繰り返し問題にチャレンジすることができるように工夫している。

○各教科等を相互に関連付けた指導 2.82 → 3.00

・人権学習や平和学習と各教科、道徳、総合的な学習の時間を関連付けて、それぞれの効果が高まることを目指し取組を進めることができた。

3 健康で逞しい「体」の育成 3.21 → 3.31 評価B

○基礎体力向上や運動への意識づくり・態度づくり 3.13 → 3.40

・全国体力・運動能力調査等を活用して生徒の実態を把握し、生徒がスポーツに親しみ、主体的

に体力向上に取り組む態度を育む保健体育科の授業づくりに努めている。また、部活動等を通して、持久力や瞬発力など課題が見られる体力・運動能力の向上に努めている。

○子どもたちの「身を守る力」 3.30 → 3.14

・小郡中学校防災計画に基づき、避難訓練を実施している。本年度は、生徒が自ら判断して的確な避難行動ができるようになることをめざし、休み時間に避難訓練を行った。また、通学路の危険箇所等については、4月当初の学団会で生徒同士の情報交換を行った。

○日常的な生徒の生活習慣等を把握し、改善を促す取組 2.50 → 3.40

・日々の生活ノートの取組や学校生活アンケート等を実施し、生徒の生活習慣等を把握。遅刻や欠席の多い生徒の健康状態から、改善が必要な生徒については、教育相談等で指導を行った。
・給食時の校内放送において食に関する情報を提供する取組を行い、バランスのとれた食事の大切さについて理解する機会を設けている。

4 地域とともにある学校づくり 2.99 → 3.14 評価B

○地域・保護者との連携と教職員間情報共有 2.94 → 3.17

・年4回の学校運営協議会と年1回の小中合同学校運営協議会を実施し、学校教育目標について学校運営協議会委員との共通理解を深め、学校の教育活動の充実に係る内容について熟議を行っている。また、各委員の立場から地域及び保護者に対して学校教育への理解や協力について働きかけを行っていただいた。

・本年度は、校則検討に関して生徒会役員の生徒を交えた熟議を行った。

○体験的な学びをカリキュラムに位置づけ 2.99 → 2.97

・1年生の地域のフィールドワークや2年生の職場体験学習、3年生の赤ちゃんふれあい体験学習など、地域の人、もの、ことに触れる体験的な学びの場の設定を計画的に行った。

○地域行事、ボランティア活動への参加 2.99 → 3.29

・5月に小郡中学校ふるさとクリーン活動を実施し、地域にある公園等の環境を整える活動を通して、地域の方々と触れ合いながら地域に貢献できる活動を実施している。また、地域で行われる行事等への参加を生徒たちにも呼びかけ、中学生が地域で活躍する姿を見ることができた。

・ボランティアパスポートの取組を積極的に行うなど、生徒の地域行事やボランティア活動に対する参画意識を高める取組を実施した。

5 ICT活用力の育成 2.68 → 3.17 評価B

○タブレットを活用した学習の実施 2.68 → 2.87

・積極的にICTを活用している教職員の授業を公開する校内研修に取り組んできた。教科によっては、授業の中で毎回タブレットを活用する場面を設定しており、生徒のスキルも高まっている。

・教師のタブレット活用スキルや活用への意識には差があるため、汎化していくための取組を今後も行っていく必要がある。

○計画的な情報モラル教育の実施 2.68 → 2.93

・生徒の情報モラルの意識を高めるために、企業と連携して携帯スマホ教室を実施した。

・SNS上での人権侵害に関する授業を技術科や社会科、人権学習の授業で行い、情報活用のあり方が命や権利を奪うことにつながることを、自分ごととして考える活動を設定した。

○キーボードのローマ字打ちでのタイピング60文字/分 2.68 → 4.00

・タイピングスキルテストを計画的に実施するなど、スキル向上への意欲を高める取組を実施した。生徒によっては、1分間に170~180文字をタイピングすることができる。

○生徒の主体性を伸ばすタブレットの活用 新項目 2.86

・「主体的・対話的な学び」の具現化に向けたタブレットの活用のあり方について、具体的な授業実践事例を交流する校内研修や小中合同研修会を実施し、教師の意識を高めるよう努めた。
・生徒は生徒会活動や学級活動、学校行事などにおいて積極的にICTを活用している。

6 個に応じた学びの充実 2.78 → 3.41 評価B

○「個に応じた学び」の計画的な実施 2.78 → 3.17

・年度当初に支援を要する生徒一人ひとりの情報を全職員で共有し、個に応じた学びの推進について検討するとともに、学習習慣等に関するアンケートを実施し、生徒の実態把握に努めた。

○保護者と教職員、専門機関をつないだ組織的な取組 2.97 → 4.00

・特別な支援を必要とする生徒に関して、個別の教育支援計画と個別の指導計画を作成し、保護者の同意を得て、丁寧な支援を行っている。
・特別支援教育コーディネーターを中心にSC等専門家と保護者とをつなぎ、さらに必要に応じて医療機関等とつなぐ取組を行っている。

○補助簿等の使用、習熟度別学習の推進 2.78 → 3.07

・一人ひとりの生徒を大切にするために、評価のあり方(補助簿等の活用)について教務主幹が提起し、全職員で共通理解を図る場を設定した。また、指導方法工夫改善担当を中心に、習熟度別による少人数授業やTTによる授業を計画的に実施している。

7 教職員の資質向上の推進 3.18 → 3.21 評価B

○指導上の課題を協議・共有して、日常授業の改善 3.06 → 3.14

・全国学力学習状況調査及び福岡県学力調査の結果を分析し、学校全体の課題について校内研究推進委員会で確認の上、全教職員に周知を行うとともに、生徒による授業アンケートを実施し、各教科の指導における課題の把握に努めている。
・年に1回全職員が授業研究を実施し、様々な先生方に見て頂きながら、授業改善に係る助言等の交流を進めている。

○組織的な共同体制のもとに研修 3.25 → 3.03

・校内研究推進委員会を中心に、研修内容や方法を協議し、年間研修計画に沿って校内研修を進めている。また、生徒や地域の実態に応じて授業に関すること、生徒指導に関すること、危機管理に関すること、生徒の健康上留意すべき事に関すること、人権・同和教育に関すること等、必要とする研修を実施している。

○組織的な人材育成 3.06 → 3.46

・福岡県教育委員会が示す人材育成指標を参考に個々の教職員のキャリアステージに応じた研修を実施し、教職員相互の協働的な人材の育成に努めている。また、各職員の資質・能力の向上を図るために、専門研修等への積極的な参加を促している。
・若手からベテランに至るまで、授業改善やスキルアップへの意欲を高めるために、研究主任を中心に研修内容を工夫してミニ研修や実践的な演習を取り入れた校内研修を実施している。

8 小中9年間を見通した指導体制の充実 2.97 → 3.20

評価B

○小中で共通理解し、統一した授業改善や生徒指導 2.97 → 3.17

・昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、小中全体での合同研修会が実施できなかったが、本年度は夏期休業中に実施することができた。また生徒支援加配やまちづくり担当を中心に、情報交換等を行っている。

○小学校での学習・生活の状況を踏まえた指導の工夫 2.97 → 3.30

・新入生入学前に小中連絡会を実施し、新入生の実態について、担当学年が情報を入手し、入学後2ヶ月を経過したところで、再度連絡会を実施した。その際の情報を基に、学習における支援や学校生活における支援等について検討・修正し、丁寧な指導に当たっている。

○特別な支援を必要とする生徒について中1ギャップ解消の取組 2.97 → 3.14

・特別支援教育コーディネーターを中心に児童の情報交換を行っている。また、6月と10月に特別支援学級在籍児童の保護者が中学校の特別支援学級とサポート教室を見学する機会を設けた。さらに、12月には特別支援学級に在籍する6年生児童による中学校見学を実施した。

9 働き方改革の推進 2.94 → 2.76 評価B

○効率的・協働的な業務遂行、時間外勤務の削減 2.94 → 2.79

・教職員個々の超過勤務の縮減への意識を高めるために、教職員の長時間勤務の実態をグラフにし、提示することで見える化を図っている。また、運営委員会で職員の勤務実態に関するデータをもとに、学年や分掌担当で業務分担や職員相互の協力体制のあり方について協議し、改善の方策等について検討した。

○業務改善の効果的な方策について共通理解 2.94 → 3.08

・各教職員の「日常の授業の在り方」や「生徒指導」、校務分掌に係る「事務作業」等に関する負担を軽減するような具体策について、本年度も有効な情報提供ができていない。
・定期考査の採点業務に採点ソフトを導入したことにより、採点業務に係る時間を短縮することができ、年休取得の促進につながった。

○定時退校、年休取得と会議等時間短縮の取組 2.94 → 2.41

・毎週月曜日を「ノ一部活動デー」「定時退校日」と位置づけ、1年間実施するとともに、部活動においても小郡市部活動基本方針に則して、週に2日の休みを設けるなど実行している。
・2学期以降、学年部会を時間割上に位置づけたことにより、時間外の学年会議を減らすことができた。

10 人権・同和教育の啓発推進 3.66 → 3.38 評価B

○人権の視点に立った温もりある教育活動 3.61 → 3.34

・「福岡県人権教育推進プラン」に沿った取組を進め「部落差別解消推進法」や「福岡県部落差別推進条例」等の研修及び人権を考える日を定期的に設定し、人権・部落問題学習の取組を行っている。11月の人権学習では、保護者に授業を公開し、学級懇談会を開く等、保護者啓発にも力を注いでいる。また、教室環境づくりと集団づくりに力を入れ、いじめ・不登校の予防と解消に努め、支え合う人間関係づくりに尽力している。

○日常的な人権課題について組織的な共有 3.70 → 3.34

・人権・同和教育を進める中で、教師自身の人権感覚・人権意識を高めるための校内研修を計画的に実施し、教師が隠れた人権カリキュラムを意識した上で、生徒一人ひとりを大切に、差別・いじめを許さない集団づくりに努めている。

・人権課題や授業づくり、集団づくりに関する教師自身のこれまでの取組を振り返り、共有するためにグループ交流を取り入れた校内研修を実施した。

○生徒が自ら解決しようとする力の育成 3.67 → 3.45

・「差別を見抜き、差別を許さない、そして差別をなくそうとする」行動ができるような生徒を育成することを目標とし、「確かな人権感覚」を育てるためのカリキュラムの実施や人権に視点を充てた教材の積極的な活用等に取り組んでいる。